

# Mucinous tubal intraepithelial carcinoma と BRCA 遺伝子変異との 関連について

## 1. 研究の対象

1984年1月～2019年9月までの間に当院で治療をうけた卵巣粘液性癌の患者さんが対象となります。

## 2. 研究目的・方法

卵巣癌は近年増加傾向であり、女性のがんの中でも特に予後不良な疾患です。卵巣癌には様々な種類（組織型）があり、日本では漿液性癌が最も多く（36%）、明細胞癌（24%）、類内膜癌（17%）、粘液性癌（11%）の順番が多いです。漿液性癌の多くは高異型度漿液性癌（HGSC）であり、そのほとんどがステージ III-IV 期で発見され、5年生存率は5-25%と予後不良です。HGSCの発生には様々な説があり、約半数は卵管の先端（卵管采）から発生する前がん病変（Serous intraepithelial carcinoma: STIC）が原因と考えられています。また、HGSCの約半数にBRCAという遺伝子の異常があることがわかっており、STICとBRCA遺伝子の以上には関連があると考えられています。

卵巣粘液性癌は卵巣癌の中で比較的少なく、漿液性癌よりも発症年齢が若く、早期で診断されることが多いという特徴があります。粘液性癌は、卵巣を原発として、良性、境界悪性、悪性と徐々に進行し、その発生にはBRCA遺伝子変異は関係ないと考えられていました。しかし、粘液性癌も卵管采から発生する可能性があり、卵管から発生した粘液性境界悪性腫瘍の報告もみられるようになりました。当院でも、卵管采に粘液性癌の前がん病変

（Mucinous tubal intraepithelial carcinoma : MTIC）があり、そこが原発と考えられる卵巣粘液性癌の症例を経験しました。

本研究は、MTICのある卵巣粘液性癌の腫瘍内のBRCA遺伝子変異を調べ、BRCA遺伝子変異とMTICが関連しているかについて検討することを目的とした研究です。

## 3. 研究に用いる試料・情報の種類

既に摘出・作成された病理組織を研究に用います。保存検体をタカラバイオ社に送付して遺伝情報解析を行います。また診療録（カルテ）から病気の発症日（診断日）から死亡・再発・増悪までの期間、治療内容、抗癌剤治療の有無とその効果、癌のひろがり（進行期）、その他日常診療で得られた年

齡や身長・体重などの臨床データ及び腫瘍マーカー等の検査データ等を採取し解析する予定です。

#### 4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先かつ研究責任者：

防衛医科大学病院 産科婦人科 講師 宮本 守員

住所 〒359-8513 埼玉県所沢市並木 3-2

TEL：04-2995-1211（代表）内線：2363